

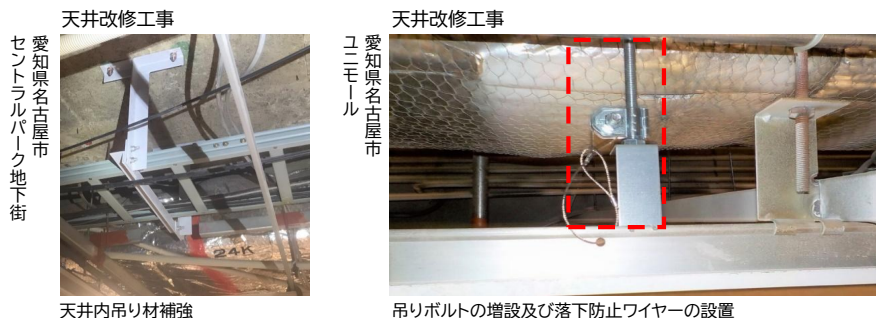
地下街の耐震性向上等に関する対策【国土交通省】

施策概要 地下街の耐震対策・漏水対策、避難施設や防災施設の整備の実施

効果 地震による地下街施設の被害を軽減するとともに、利用者等の安全な避難等のための適切な機能を確保

全国的な対策と効果

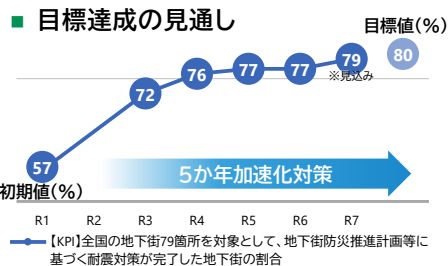
対策1 地下街の耐震対策を実施(全国2箇所)の地下街で対策が完了



対策2 地下街における防災施設の整備を実施(全国1箇所)の地下街で対策が完了



全国にある79地下街の8割以上が、開設から30年以上経過し、老朽化した設備の適正な管理や安全対策の取組を計画的かつ着実に推進することが必要とされている。



予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
0.5億円	0.5億円	0.5億円
R6	R7	累計
0.8億円	1億円	3.4億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

整備事例

地下街の耐震対策により、地震時の被害軽減及び機能確保を図る



株式会社ユニモール

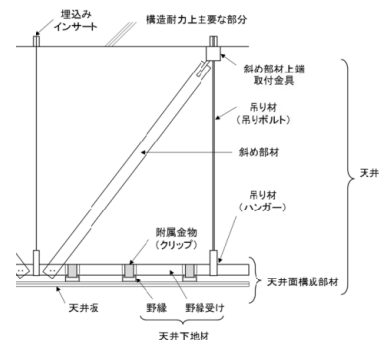


愛知県名古屋市

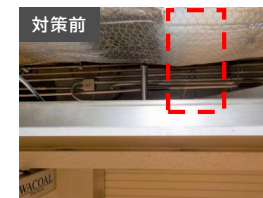


地下街防災推進事業

天井吊り材補強工事



在来工法による一般的な吊り天井の構成 (図版出典:建築物における天井脱落対策に係る技術基準の解説)



事業費

1.5億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)1.5億円)

事業の背景(地域の課題)

「ユニモール地下街」は都心部の駐車需要に対応するために昭和45年に開業した古い建物(地下構造物)であるため、設計時に耐震設計が行われていません。平成元年に延伸され、幹線道路(桜通線)の地下を名古屋駅から国際センター駅までを結ぶことで歩車分離と地上交通緩和に寄与しており、約5万人/日が訪れる重要な都市施設です。

事業の内容

通路部分は基本的に地下鉄営業時間中開放されており、夜間や冬期においても快適な歩行空間を提供しています。このように公共性の高い「ユニモール地下街」において、地震発生時の安全性の向上を図るため、地下街等防災推進計画に基づき、天井内部における吊りボルトの増設や落下防止ワイヤーの設置等の天井改修工事を実施しました。

ユニモール地下街位置図



見込まれる効果

天井改修工事により、地震による非構造部材の落下に伴う被害の軽減や歩行空間としての機能維持等が見込まれます。

※東日本大震災等、過去の大地震では、吊り天井が落下する被害が数多く発生しました。

(1)	1	人命財産の被害最小化	激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策
(2)	2	交通・ライフラインの維持	インフラの老朽化対策
(1)	3	施策のデジタル化	国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進
(2)		災害関連情報の高度化	